

出村幹英：日本藻類学会第 31 回大会参加記

2007 年 3 月 23 日から 25 日にかけて、神戸大学において日本藻類学会第 31 回大会が開催されました。

24 日午前は A, B 会場に分かれての口頭発表、午後はポスター発表、各会場で引き続き口頭発表が行われました。私は、おもに A 会場で発表を視聴しました。発表では、当然のことながら、自分の研究する分類群以外の藻類が対象になっている場合がほとんどです。しかし、発想、実験の方法、論理展開など、自分の研究にとって非常に勉強になることばかりでした。また、一番初めに発表された雪上藻類については、自分が雪深い所で育ったこともあり、非常に興味がわきました。故郷に帰省した際には注意して観察してみたいと思いました。ポスター発表では私も海産のラフィド藻で有害赤潮藻類である *Chattonella* の生活史に関する研究発表させていただきました。藻類学会での記念すべき初発表となります。いろいろのご意見ご質問を糧に、さらに磨きをかけ論文での発表を目指したいと思いました。

24 日には総会、懇親会、そして若手の会も開かれました。若手の会では、有賀先生のお隣に座らせていただきました。先生は、私が所属する筑波大の大々先輩です。先生から貴重なお話をたくさんお聞きすることができました。先生の学生時代のお話をお聞きしていると、私が日ごろから悩んでいること（学位はとれるかな？学位をとっても就職は？など…）がちっぽけな悩みに感じられ、なんだか心が軽くなり、やる気が沸いてきました。先生、本当にありがとうございました。

25 日には午前中に口頭発表とポスター発表、午後に口頭発表とワークショップが開かれました。午後の口頭発表で、私は、*Chattonella* の遺伝的多様性解析についての発表をさせていただきました。緊張のあまり、発表そのものについては全く記憶がありません…。しかし、質問していただいたことはしっかりと心とノートに刻み込みました。



口頭発表会場



ポスター発表会場

ワークショップは、「A：最新！分子系統解析法」「B：DNA を用いた藻類の集団解析－海藻・アオコ・赤潮研究の最前線－」が同時進行で行われました。どちらも聞きたくて、自分の分身がほしいと思うぐらい悩んだ末、B を選びました。海藻を神戸大の上井博士、アオコを国立環境研の田辺博士、赤潮研究では瀬戸内水研の長井博士が、最新の研究結果をたっぷり紹介してくださいました。3 時間が本当に短く感じられる刺激的なワークショップとなりました。3 博士の研究に共通していたのは、複数の解析ソフトを駆使し、データ解析を行っている点です。インターネットから非常に多くの集団解析ソフトがフリーで手に入ります。どのような場面で、どのソフトを使うのか、ソフトを使いこなす技術が、集団解析をする際の基本技術として必要だなあと感じました。

最後になりましたが、このような素晴らしい体験をさせていただいた川井先生をはじめ神戸大の大会スタッフのみなさまに御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(筑波大連携大学院・国立環境研究所)